

# シラバス詳細

タイトル「2023年度」、カテゴリ「教養教育科目」

和文・英文ボタンを押すことで、和文↔英文の切り替えができます。

和文 英文

医学部のシラバスはこちらから。  
医学系研究科博士課程のシラバスはこちらから。

## 科目情報

### コースナンバリング

1-940x000

### 科目名

ドイツ文学B

### 開講学期

後期

### 開講時期

4クォータ

### 曜日・校時

集中講義

### 単位数

< BACK

## 授業担当教員

重竹 芳江

## 講義情報

### 学士力番号

1(1)

### 曜／限追記

11月11日（土）と11月12日（日）の1～4限

### 講義形式

作品が成立した背景や作者について学び、様々なモチーフに沿って作品を読み解いていきます。作品の引用箇所は履修者の皆さんで順番に音読してもらいます。

### 講義概要

本講義は、読書を通じて異文化への興味を高めることを目指す授業です。ドイツ語圏の代表的な文学から2作品を取り上げ、作品が成立した背景や作者について学び、内容や表現の分析を通じて様々な角度から作品を味わいます。

今回取り上げるのは次の2作品です。

- ミヒャエル・エンデ『モモ』
- ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』

### 開講意図

異文化への興味を高め、読書を身近なものとして感じる体験をしてもらいたいです。

### 到達目標

- ドイツ語圏の代表的な作家や作品について、時代背景とともに理解する。
- 作品を様々なテーマ・モチーフに沿って読むことで、作品の読みを深める。
- 作品をじっくり味わう。

### 授業計画

回	内容	授業以外の学習 本科目は、単位数×45時間の学修が必要な内容で構成されています。授業として実施する学修の他に、授業の内容を深めるために以下の事前・事後学修が必要です。
1	<p>【1日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●作者ミヒヤエル・エンデについて</li> <li>●作品成立の背景</li> <li>●登場人物</li> <li>●様々なモチーフ</li> </ul> <p>【2日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●作者ヨハンナ・シュピリについて</li> <li>●作品成立の背景</li> <li>●登場人物</li> <li>●様々なモチーフ</li> </ul>	気になるモチーフに沿った読み方を自分なりに試し、レポートを作成する。

## 成績評価の方法と基準

授業中のコメントペーパー（60%）+レポート（40%）の合計で評価する。

## 開示する成績評価の根拠資料等

レポートのテーマ

## 開示方法

問い合わせに応じていつでも公開します。

## 教科書

資料名		版
著者名	発行所名・発行者名	出版年
備考（巻冊：上下等）		ISBN
モモ		
ミヒヤエル・エンデ	岩波少年文庫	978-4001141276
イジ（上）		
ンナ・シュピリ	岩波少年文庫	978-4001141061

資料名		版
著者名	発行所名・発行者名	出版年
備考（巻冊：上下等）		ISBN
ハイジ（下）		
ヨハンナ・シュピリ	岩波少年文庫	978-4001141061

## オフィスアワー

水曜4限

事前にメールで連絡をください。

アドレスはつぎのとおりです。（@の後にeduを付けないように気をつけて！）

sn7880@cc.saga-u.ac.jp

## アクティブラーニング導入状況

アクティブラーニング導入状況				
カテゴリ4	カテゴリ3	カテゴリ2	カテゴリ1	カテゴリ0
<p>学生が自ら主体となって、学習の方向性を定め、問題解決に導くための時間です。PROBLEM BASED LEARNING</p>	<p>グループや個人で行った能動的学習の成果を、教室内外で発表し、その評価を受けたり、質問に対応したりすることにより、学修した内容を深化させるための時間です。OUTPUT</p>	<p>学生自らが自由に発言し、グループやペアでの協働活動により課題に取り組み、何らかの帰結に到達するための能動的学習の時間です。INTERACTION</p>	<p>学生からの自由な発言機会はないものの、授業時間中に得られた知識や技能を自ら運用して、問題を解いたり、課題に取り組んだり、授業の振り返りをしたりする能動的学習を行う時間です。ACTION</p>	<p>基本的に学生は着席のまま、講義を聞き、ノートを取り、知識や技能を習得に努める時間です。INPUT</p>
0	20	20	30	30

## その他

理工学部 of 技術者教育(JABEE)プログラムでは、「人類のさまざまな文化や社会に関する知識を基に、多面的に物事を考える」能力を養成するために、下記の学習・教育到達目標を掲げています。基本教養科目（文化の分野）の修得により、下記の学習・教育到達目標が達成されます。

（機械システム工学科）学習・教育到達目標(7-1)

（電気電子工学科 [2023 年度卒業生まで]）学習・教育到達目標(D1)

（理工学科機械エネルギー工学コース）学習・教育到達目標(7-1)

（理工学科メカニカルデザインコース）学習・教育到達目標(7-1)